

アトピー性皮膚炎 治りにくさの原因 その2

アトピー性皮膚炎の原因の3つ目は吸入性抗原です。吸入するものが原因であるなら、鼻、気管支、肺など呼吸器系にアレルギー症状が出現するものと思われませんが、皮膚症状も例外ではありません。生後数か月で花粉による皮膚炎がみられることも稀ではありません。食物アレルギーをすべて克服した大学生は、アレルギーが花粉だけですのに全身のアトピー性皮膚炎が治りません。偶々砂漠地方に暫く研究に行つて帰つてこられたとき、何の薬も使わずにすっかりよくなっていました。また同居している家族がヘビースモーカーの主婦は、タバコの煙のアレルギーを引き起こして、その症状は強いステロイド外用剤を使わざるを得ないほどの痒みの強い皮膚炎です。新建材や除菌剤、柔軟剤、合成洗剤等の揮発性におい成分により皮膚炎を起こす場合もよくみられます。最近では、P.M2.5や黄砂も原因となることがあります。

吸入性抗原に対する対策は、困難なことが多く、完全にはできません。小さい子供さんではマスク着用もできません。着用できても抗菌剤など素材にアレルギー反応を起こして使えないこともよくあります。空気清浄機も有効です。フィルター素材など相性の良いものを選んで使しましょう。

アトピー性皮膚炎の治りにくさの原因はアレルギー対策の不十分さだけではなく、次のような事柄にも注意が必要です。

- 1 使用している外用剤や内服薬が合っていない場合、適合するものに変更します。基材や添加物が合わなくなってくることもあります。
- 2 塗布する量が少なすぎて痒みが抑えられていない場合、引っ搔いて悪循環におちいります。十分な量を使う必要があります。
- 3 細菌感染を合併している場合、多くはブドウ球菌ですが、適合する抗生物質の内服や外用剤が必要です。また強酸性水などの消毒剤が有効です。
- 4 真菌感染を合併している場合、白癬菌、カンジダ菌、マラセチア菌が多いのですが適合する抗真菌剤を使用します。最近、日焼け止めクリームの使いすぎのためか顔に真菌感染を合併している場合もみられます。内服薬は肝障害に注意して使います。
- 5 疥癬症は、皮膚に寄生するダニによるものですが殺ダニ剤が必要です。最近、少なくなりましたが、ステロイド剤使用により難治化していることがあり注意を要します。
- 6 ウイルス感染を合併している場合、ヘルペスウイルスは、悪化が激しいため見逃されることはありません。抗ヘルペスウイルス剤を使用します。初期の軽い場合はレモンマートル(ハーブ)でも有効です。水いぼ(伝染性軟属腫)のまわりは、皮膚炎が出やすくなっていますが、一年ほどで水いぼも治りますので皮膚炎の治療もしやすくなります。
- 7 皮膚、神経、代謝などに必要なビタミンH(ビオチン)不足も多くみられます。必要性がある間は補います。乳児でも不足している場合があります。
- 8 夜遅い夕食、早食い、過食、睡眠不足、便秘、腸内細菌叢の悪化、不安なども治りにくさの原因になります。

以上のように様々なアレルギーの除去に努力し、その時々起こってくる問題を解決しながら生活に支障のないレベルまでの改善をめざしましょう。